

東北産業経済研究所主催シンポジウム

「コロナ禍をこえた東北経済のパノラマを描く」

十一月二十七日、東北産業経済研究所主催シンポジウム「コロナ禍をこえた東北経済のパノラマを描く」が押川記念ホールで行われた。

今年度は、昨年度の経験を生かし、オンライン(会場参加)、オンタイム(遠隔参加)、オンデマンド(動画配信)併用のハイフレックス型シンポジウムが試みられた。研究所長の佐藤康仁経済学部長によるあいさつ、総合司会を務めた経済学部の千葉昭彦教授による趣旨説明の後、東北や宮城の地域経済を支える各分野のエキスパートをお招きして基調報告が行われた。



密着型企業の重要性を説明した(論題)「ポストコロナと地域経済」。十七日サーチ&コンサルティング株式会社調査研究部首席エコノミストの田口庸友氏は経済動向と人口動態を踏まえて、コロナ禍終息後における東北経済の課題と方向性を提示した(論題)「コロナ禍における東北経済の動向と課題」。近畿日本ツーリスト株式会社仙台支店の関貴光氏は、従来とは異なる人流に依存しないための方法として、企業や官公庁などの間接業務の一括代行サービスを指すBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)事業、オンラインツアー、サブスクリプションなどの新事業の可能性を解説した(論題)「旅行業における反転攻勢」。株式会社佐藤勘三郎氏は、コロナ禍終息後の世界的な観光業界の需要増大

「リバンド消費」を予想し、従来の「モノ」や「コト」ではなく、「ココロ」に訴求するサービスの提供が今後のカギになると論じた(論題)「新型コロナウイルス感染症と観光業界の現状と将来」。株式会社藤崎取締役執行役員 勢田誠一氏は、コロナ禍前から抱えてきた構造的課題の顕在化を詳説した上で、地域ブランドの推進者としての百貨店の役割を再確認した(論題)「コロナ禍で学んだ地域における百貨店の役割」。コープ東北サンネット事業連合執行役員 店舗商品部長の今野一彦氏は、外出自粛が迫られる状況において「産直」をはじめとするプレミアム商品の開発や普及が、生産者と消費者との相互理解を促すことを詳らかにした(論題)「東日本大震災・コロナ禍から学んだ地域とのつながりの大切さ」。



大学の学生サークル「もりまちCoAL」のメンバーが昨年12月29日、Date fm主催のラジオイベント「RADIO GIGA 令和03」の中で学生企画を実施した。

「RADIO GIGA」はさまざまなアーティストが出演するライブを年末に開催し、その模様をラジオで生放送する。前年は新型コロナの影響で中止したため、2年ぶりの開催となった。

もりまちCoALはこのイベントに2019年から関わり、会場でアーティストに直筆メッセージを送ることができる「手書きTwitter」を企画・実施している。メンバーは前回実施した際の反省などを踏まえ、来場者へのアナウンスの仕方やメッセージボードの装飾などを見直し今回のイベントに臨んだ。

メッセージを通じてアーティストとつながるとあって、当日は開場と同時に大勢の来場者がイベントブースに訪れ、お目当てのアーティストに向けメッセージを書き込んでいた。多くのメッセージが寄せられたメッセージボードは後日、Date fmを通じてそれぞれのアーティストへ届けられた。

イベントのリーダーを務めた相澤匠さん(経済学科3年)は「ライブ会場に来られた皆さんの思いをアーティストに届けるお手伝いはもちろんだが、コロナ禍でメンバーが集まって活動することが難しかっただけに、今回の活動を通じてメンバー間の絆を深めることもできた」と振り返った。また、サークル代表の奥泉直弥さん(経済学科3年)は「コロナ禍でストップしてしまった活動もあったが、さまざまなアイデアを持ち寄って少しでも地元を元気付けられるよう、これからも活動を続けていきたい」と抱負を語った。

己分析、原稿読み、面接対策では対面接触のほかにWEB面接の練習にも取り組む、アナウンサーになるための総合力を養ってきた。その集大成となる最終回は、カメラに向かってのアナウンステスト。学生たちの成長の結果を見届けようと、栗津先生も駆けつけた。カメラを向けられ、若干緊張した面持ちでリハールを行った後、いよいよ本番へ。学生たちは二ユースや天気のアナウンス原稿を一言一言丁寧に読み上げ、商品PRでは自ら考えたPR内容を基にフリートークで紹介。これまでの成果を存分に発揮した。栗津先生は、学生たちの成長ぶりに驚いた様子で、学生一人一人に対しプロならではの視点で講評された。

その後、鈴木先生から学生たちに修了証書が手渡され、受け取った学生は講座を振り返って感想を述べた。このうち一人からは「この講座を受講し、本や新聞を

業の一つで、土樋キャンパスに出店中のパン店「土樋パン製作所」からの協力も受けた。本企画に榴ヶ岡高等学校の生徒も授業の一環で参加。十二月六日には「パン店の活性化」を

当日は企画に関わる教職員や土樋パン製作所をはじめとする学外関係者のほか、大西晴樹学長も参加し、学生の発表に熱心に耳を傾けていた。大西学長は全グループの発表後「各グループが出した課題と解決するためのプロジェクトについて興味深く聞いた。今後は各プロジェクトの連携を意識し、それぞれがもっと深く関わることので、自分たちがやりたい事をより強く押し出してほしい」と話した。各グループは今後、今回発表された解決策に対して出された意見や提言などを踏まえ再検討し、実行に移していく予定だ。

とる研究メンバーは、キャリアアカウンセリングとキャリア目標に合わせた伴走型の個別学習支援による学び直しの機会を提供した上で、対象者の変容を分析した。「だれひとり取り残さない社会の実現」という、今日的な課題を取り上げた実践的実証的な研究という点などが高く評価された。

以上の基調報告を受けて、千葉教授をモデレーターとするパネル

講座に参加した四名の学生は「一度も欠席することなく、発音練習や自

読むことが好きになり、気が付いたら記事を書き出し、読んで記事を書き出すようになった。アナウンサーになることを目指して頑張っていた」と今後の就職活動に向けた抱負も聞かれた。

最後に鈴木先生は「これからどの道に進むに当たっても、日頃から二ユースや社会問題に関心を持って日々を過ごすことは大事なことです。就職試験や、社会に出てからも絶対に生きてきます。就職というゴールに向けて、皆さんはTGアナウンサー対策講座を通して一歩も二歩も進んでいます。今回の経験は必ず役立つと思いますので、このまま頑張ってください」と学生たちにエールを送った。

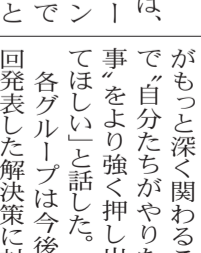
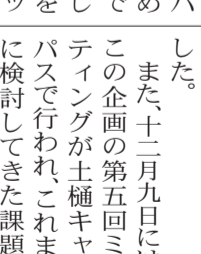
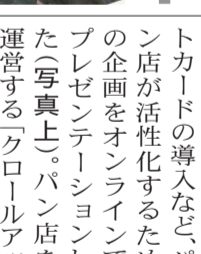
銀行ホールで「交通安全に尽力し表彰」泉キャンパス

この賞は、交通安全のために尽力した個人や団体などに贈られる賞であり、泉キャンパスでは泉区内で春と秋に実施される交通安全総ぐるみ運動や交通事故防止活動へ参加して学生に

交通安全指導を行うなど、交通安全に対して積極的に取り組んでいる。



TGアナウンサー 対策講座が修了 全25回



東北学院大学×榴ヶ岡高等学校 パン店活性化企画

業の一つで、土樋キャンパスに出店中のパン店「土樋パン製作所」からの協力も受けた。



当日は企画に関わる教職員や土樋パン製作所をはじめとする学外関係者のほか、大西晴樹学長も参加し、学生の発表に熱心に耳を傾けていた。大西学長は全グループの発表後「各グループが出した課題と解決するためのプロジェクトについて興味深く聞いた。今後は各プロジェクトの連携を意識し、それぞれがもっと深く関わることので、自分たちがやりたい事をより強く押し出してほしい」と話した。